

令和2年4月14日

川崎市市民文化局

第4回川崎市市民ミュージアムの復旧等に関する庁内検討会議 摘録

- 1 日 時：令和2年4月8日（水）10時～11時
- 2 場 所：第3庁舎18階大会議室
- 3 出席者：座長 加藤副市長
副座長 伊藤副市長
藤倉副市長
委員 総務企画局長
財政局長
市民文化局長
まちづくり局長
建設緑政局長
教育次長
関係者 上下水道事業管理者
上下水道局下水道部施設課長
上下水道局下水道部施設保全課長
中原区長
中原区副区長
中原区役所まちづくり推進部地域振興課長
教育委員会事務局生涯学習部長
市民文化局市民スポーツ室長
市民文化局市民スポーツ室担当課長
事務局 市民文化局市民文化振興室長
市民文化局市民文化振興室担当部長
市民文化局市民文化振興室担当課長
市民文化局市民文化振興室担当課長
市民文化局市民文化振興室担当課長

- 4 議 題：1 収蔵品レスキューの状況について
2 川崎市市民ミュージアム及び川崎市とどろきアリーナの浸水に関する検証について
3 その他

- 5 資 料：資料1 川崎市市民ミュージアム 収蔵品レスキューの状況について
資料2 令和元年東日本台風における等々力緑地の浸水について
資料3 令和元年東日本台風における市民ミュージアムの対応に係る検証報告書（案）
概要版
資料4 令和元年東日本台風における市民ミュージアムの対応に係る検証報告書（案）
資料5 令和元年東日本台風におけるとどろきアリーナの対応に係る検証報告書（案）
概要版
資料6 令和元年東日本台風におけるとどろきアリーナの対応に係る検証報告書（案）

6 摘 録：
（座長）

本日は、昨年度末でのレスキュー状況についての情報共有と浸水に関する検証について報告書案を説明する。隣接地で同様に浸水したとどろきアリーナの検証についても、同様に報告書案を議題とさせていただく。両施設の浸水した原因が同じであり、上下水道局における調査結果が検証に関係することから、本日は上下水道事業管理者も関係者として出席している。あわせて、とどろきアリーナの関係者として中原区長も出席している。限られた時間ではあるが、全庁的な観点から議論してもらいたい。今回は、浸水の検証に関する議題であることから、会議を公開させていただく。

〔議題1について市民文化振興室担当課長から資料説明（資料1）〕

- ・ 収蔵品レスキューのこれまでの経過・対応内容
- ・ レスキュー支援体制（令和2年4月3日現在）
- ・ 収蔵品のレスキュー状況（令和2年4月3日現在）
- ・ 収蔵品のレスキュー状況概要（令和2年4月3日現在）
- ・ 今後のスケジュール

〔質問・意見〕

（総務企画局長）

今後、修復作業が長期化すると思われるが、課題は何か。

（市民文化振興室担当部長）

個々の作品によって修復作業が変わってくるので、まとめて修復するというよりは、1点1点専

門家に見ていただいて、その作品に応じた修復にまわっていくので、一括して修復するということができないのが課題であると考えている。

(座長)

今のスケジュールの関係で、新型コロナの緊急事態宣言などのいろいろな対応がある中で、この当面の搬出・応急措置・燻蒸というスケジュールは、今の状況で大丈夫なのか。

(市民文化振興室担当課長)

外部支援団体からの応援が、新型コロナ対策の対応ということで受けられない状況になっている。市の応援も土曜日が中止になっているので、土曜日に市の職員が出てくるということになると指定管理者もそれなりの体制を整えないといけない。今は指定管理者がほぼやっている状況であるが、コロナの影響で他の事業を縮小している部分があるので、そのマンパワーを投入したり、グラフィックなどすでに在庫が完了している部分もあるので、そちらから人員を投入することで対応しているところである。今後、状況を見ながら対応を考えていきたいと考えている。

[議題2について上下水道局施設保全課長から資料説明(資料2)]

- ・ 等々力排水区の概要
- ・ 施設の概要
- ・ 浸水被害情報
- ・ 等々力雨水幹線(自然流下)における主なマンホール地盤高
- ・ 多摩川水位と等々力緑地周辺の地盤高の関係
- ・ シミュレーションによる検証
- ・ 溢水原因のまとめ

[議題2について市民文化振興室担当課長から資料説明(資料3)]

- ・ 検証の概要
- ・ 令和元年東日本台風の概要
- ・ 被害の概要
- ・ 対応の状況
- ・ 今回の対応に関する検証
- ・ 今後の具体的な対策
- ・ 市民ミュージアムの立地

[議題2について中原区役所地域振興課長から資料説明(資料5)]

- ・ 検証の概要
- ・ 令和元年東日本台風の概要

- ・ 等々力緑地の浸水原因
- ・ 被害概要
- ・ 対応状況
- ・ 対応の検証及び検証を踏まえた対策
- ・ 検証を踏まえた今後の取組

[質問・意見]

(座長)

この内容については、事前にミュージアム、アリーナの検証のために説明を受けているということとでよいか。資料説明の内容について、簡単に説明してもらえるとありがたい。

(上下水道局施設保全課長)

資料2の6ページをご覧いただきたい。多摩川の水位が上がってくると、流れにくくなってくる現象が起こる。等々力ポンプ場からはポンプで排水し、等々力水処理センターからもポンプで押し込んでいる。そうすると等々力雨水幹線の自然排水のラインは、自然流下へ出しているのので、流れが滞る。そうすると水の行先がなくなってしまう、溢水してしまう。

(副座長 (藤倉副市長))

上下水道局は、この事象について、いつ把握したのか。

(上下水道局施設保全課長)

浸水が起きたということはいろいろな報道で知ってはいたが、どこから水が溢れているかということが、なかなかわからなかった。マンホールから溢水しているという情報は早い段階でつかんでいたのので、何かしらのことが起きたであろうということはわかっていた。

(副座長 (藤倉副市長))

シミュレーションによって再現したということだが、ミュージアムの浸水が認められた時間、また、アリーナの浸水が認められた時間を踏まえると、このシミュレーション自体は概ね再現性が認められる。今回観測した多摩川最高水位は10.31メートルだったが、これより高い位置のマンホールからの溢水はなかったということとでよいか。

(上下水道局施設保全課長)

10.31メートルより高いところについては、現地調査したが溢水の痕跡はなかった。

(副座長 (藤倉副市長))

今回、雨の影響はもちろんあると思うが、多摩川の水位によってここが溢れそうだということ、また同じようなことが起こりそうだということがこれで推定できるということとでよいか。

(上下水道局施設保全課長)

シミュレーション上の溢水発生が17:20頃、そのときの多摩川水位が8.5メートルくらいであり、ここまで上がると溢水が始まるのではないかと予見ができる。

(副座長 (藤倉副市長))

今回しっかり整理していただいて、それぞれの施設で今後の対策についての報告もあったが、情報共有をしっかりしていただいて、概ね河川の水位の想定をして、それぞれに情報共有をしてあげることによって事前の準備ができると思うので、これからしっかり連携を図ってほしい。

(座長)

今後の想定として、レスキュー中の収蔵品を風水害からどのように守るのか。

(市民文化振興室担当部長)

修復が終わったものや燻蒸等の安定化処置が終わったものについては、プレハブに保管しており、今後修復が終わったものについては温湿度管理ができる外部の保管庫に順次移していく予定であるため、修復が終わった収蔵品については、基本的にはミュージアムに残らない。実際に保管庫に保管を始めるのは、業者と調整中ではあるが、8～9月くらいにはプレハブの中がほぼ残っていないような状況を予定している。

(副座長 (藤倉副市長))

プレハブは、どのくらい使える予定なのか。

(市民文化振興室担当部長)

プレハブに関しては、契約は2年間。ミュージアムの電気が使用できない状態なので、応急処置等のレスキュー作業で使用するためのものであるが、冷凍コンテナは購入するので、そのまましばらく置いておくことができる。

(副座長 (藤倉副市長))

今後の具体的な対策として、工事中バリケードで水を防ぐという応急対策になるかと思うが、区役所と建設緑政局と連携を図って、水の逃げ場について検討して実施していただきたい。

(座長)

とどろきアリーナについては、今回の上下水道局の考察を踏まえたうえで水を防ぐ対策等については特に大きな変化はないということによろしいか。

(中原区役所地域振興課長)

特に大きな変化はない。

(中原区長)

本件については、浸水の原因が明らかになったあとに指定管理者の方で検証を行った結果、有識者の意見を踏まえて、施設自体はその対応で大丈夫であろうということだったが、緑地全体について関係局とともに、費用対効果を踏まえて全体の水の流れをコントロールできるような措置を検討しているので、大至急進めていきたいと考えている。

(上下水道事業管理者)

等々力緑地の地域自体が低い位置にあるため、多摩川の水位が上がり一定の雨が降ると今後もこのような災害が発生する恐れがある。地域全体として対応していく必要がある。各施設ごとの対応

もちろん大事だが、今後の地域全体の土地利用のあり方を考えていかなければならないと思う。また、下水道の立場としては、等々力ポンプ場の機能アップが可能かどうかの検討など、今回のようなかつてないほどの水位に対応するためのインフラとして、今後ポンプ場をどうするかといったことも検討しなくてはいけないと考えているが、費用対効果の問題もあるので、エリア全体の取り組みが必要であり、その中で我々も下水道部門の施設管理者として何かできることはないか引き続き検討していきたいと考えている。ぜひ連携して浸水対策を検討していきたいと考えている。

(座長)

今後の予定はどうなっているのか。

(市民文化振興室担当部長)

今後の予定については、10日の文教委員会で庁内検討会議の内容を報告し、14日に危機管理推進会議で市の浸水検証の報告があるので、併せて報告する予定。収蔵品レスキューについては、定例的に今後も報告をしていく。

以上